

古 典 B 授 業 指 導 計 画

授 業 者 清 水 和 美

- 1 日 時 令和3年2月12日(金) 5限
- 2 実 施 場 所 25HR教室(南館3階)
- 3 H R 25HR(文系)
- 4 生 徒 観 これまでの授業においては、平安時代の作品を通して、「言葉」や「背景」についての理解を大切にしながら、学習を重ねてきた。ペアワークやグループワークにも積極的に取り組み、意欲も高い。知識の活用課題があるので、この授業では知識の活用を意図し、ことばへの理解を深めたい。
- 5 単 元 『平家物語』「忠度の都落ち」
- 6 本時の目標 ①言葉による見方・考え方を働かせ、それぞれの人物の言葉から、「思い」をつかむ。
②明確な根拠をもって科学的に思考し、他者との協働により、深い学びにつなげる。
- 7 本時の展開

	指 導 事 項	留 意 点
導 入 (10分)	本時の目標と活動について説明を行う。	言葉を根拠にして理解を深めていくことを改めて確認する。
展開1 (10分)	各班の取り組みをシェアさせる。「特派員方式」 ○「特派員」として聞き取りを行う者は、各班の工夫点を取材する。 ○各班に残る者は、自分たちの状況把握・訳の工夫点を明確に伝える。	質問事項については、前時に班で決めておく。 (人物・場面などの把握・台詞の工夫の仕方などについて質問事項を考えさせる。)
展開2 (20分)	①グループ活動に戻り、「特派員」の聞き取り事項をグループ内で共有させる。 ②脚本を修正し、完成させる。	ことばに表れた「思い」を表現する工夫ができているか、確認させる。
まとめ (10分)	①本時の振り返りを行う。 ②次時の学習について、説明する。	ループリックによる自己評価・教員の評価を行う。